

ポストコロナ社会におけるメタバース語学留学の可能性と実践そして発展

○山田 知沙^{a)}、森 啓年^{b)}、加来 真理子^{c)}、三上 真人^{b)}

^{a)} 山口大学総合技術部技術企画課、^{b)} 山口大学大学院創成科学研究科、^{c)} 山口大学工学部

1. はじめに

山口大学工学部では、コロナ禍の代替措置として導入した Virtual Reality を用いた語学留学の特性に着目し、新しいカタチの留学として発展させた。これに至るまでの取組と今後の発展について、これまでの海外研修の取組と合わせて紹介する。

2. メタバース留学の導入背景

山口大学工学部では、2021 年度より、「新しいカタチの留学」としてメタバース留学を実施している。本センターでは、2012 年に「文部科学省 経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成事業」に採択されたことをきっかけに、段階的にグローバル・エンジニアの育成を目指す体系的な海外研修プログラム（語学研修と技術研修）を年に 2 回実施しており、これまでの派遣総数は、21 か国 50 高等教育派遣機関及び 4 企業（海外に拠点等を置く日本企業）へ 1,152 名を数え、工学教育のグローバル化に大きく貢献している。工学部が実施するメタバース留学は、コロナ禍において海外研修への参加を希望するが、その思いを実現できない状況に直面している学生に対して、新しい支援方法を模索した。それが、メタバース留学で、2021 年 10 月より現地留学の代替措置として、派遣協定校のひとつであるイギリス・シェフィールド大学の提案で導入した。

メタバース留学では専用のヘッドセットを着用し、従来の画面越しのオンライン留学では得られなかった臨場感や没入感を提供することで、実践的な英語学習の機会を創出した。これらの取り組みを通じて、日本の教育の在り方や学習方法を革新し、メタバース留学を一過性の施策とせず、「新しいカタチの留学」として積極的に発展させている。

3. これまでの取り組み～実践編～

3.1 コロナ禍での取り組み

イギリス・シェフィールド大学附属語学学校

(English Learning Teaching Centre, 以下 ELTC) と山口大学工学部は 2004 年より工学系に特化した短期語学研修を実施している。ELTC では、学生は、ネイティブの講師から英語を学ぶことができる。

コロナ禍では、多くの大学がオンライン英会話レッスンを代替措置として導入したが、ELTC のみが Virtual Reality (VR) を利用した語学留学（以下メタバース語学留学）を提案した。メタバース語学留学では、VR ヘッドセットとコントローラーを使用し、アバターを選択して ELTC の英語授業をリアルタイムで受講できる。

バーチャルロケーションはホテルやカフェ、レストラン、公園、空港など多岐にわたり、学生は仮想体験を通じて実用性の高い英語力を習得する機会を得ることができた。このように、メタバース留学は従来のオンライン留学と異なり、より実践的な語学学習を提供し、語学力やコミュニケーション能力の向上に寄与した。

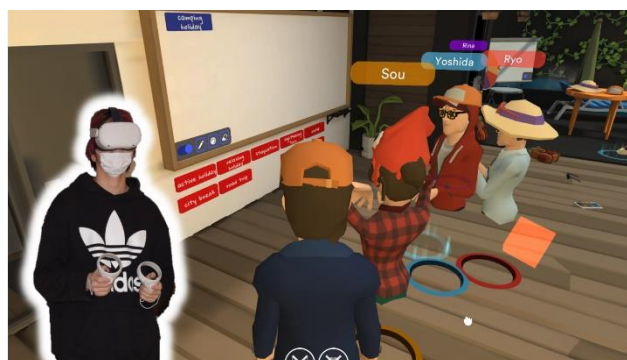


図 1 シェフィールド大学との VR 留学イメージ

3.2 コロナ禍の実践からの導入事例

メタバース留学は、従来の海外研修の選択肢を広げる新たな試みである。その導入事例として、海外研修の機会を拡充、渡航前オリエンテーションでの活用、オープンキャンパスやホームカミングデーを利用し、高校生や地域の方への体験機会の提供につ

いて紹介する。

- ・海外研修の選択肢の拡充

メタバース留学を導入することで、現地での異文化体験が難しい学生にも学習機会を提供し、経済的・環境的な要因による留学の制約を軽減した。

- ・渡航前オリエンテーション

シェフィールド大学へ現地留学する学生が渡航前に現地の環境を事前体験できるよう活用。特に初めて海外渡航する学生に対し、不安の軽減に寄与した。



図2 シェフィールド大学事前オリエンテーション

- ・オープンキャンパス及びホームカミングデーでの活用

高校生や地域の方にメタバース留学を体験してもらう場を提供し、日本の教育分野のDX推進にも貢献した。



図3 ホームカミングデーの様子

- ・学内への周知

学生及び教職員を対象に体験会を定期的に開催し、メタバース留学を体験してもらう機会を創出し

た。



図4 学内体験会の様子

4. 抱える課題と今後の取り組み～発展編～

4.1 海外研修における課題

我々が実施している海外研修にはいくつかの課題がある。まず、研修参加前に英会話に慣れる機会が十分に確保されていないこと、また、参加後には英語での会話機会が大幅に減少してしまう点である。次に、学生が海外研修に参加するには高額な費用がかかるため、経済的要因が参加の障壁となっていることが挙げられる。メタバース留学が、これらの課題の解決策として有効であると考えた。そこで、私たちはシェフィールド大学とVR英語学習の共同研究を行っている Immerse と連携し、学生の継続的な学習機会の提供と現地留学の経験後の自己目標設定と自身の積極的なキャリア形成に繋げる機械の創出を目指すこととした。

4.2 Immerse について

Immerse は、プロの講師による指導、AI アバターとの練習、グローバル学習者との交流を可能にする語学プラットフォームである。2025年2月時点で、100カ国以上から200,000アカウントが登録^[1]されており、日本人利用者はそのうち5%を占める。本プラットフォームには、英語力向上に必要な3つの主要学習機能が備わっており、ポストコロナ社会において単なる新しい留学の形ではなく、海外研修をより充実させる手段として活用可能である。我々は令和7年度4月より、事前学習や事後学習における英語力向上、継続的な学習の定着、モチベーションの維持・向上を目的とし、Immerse を活用した継続学習を促進するツールとして導入する。Immerse では、アカウント作成後にレ

ベル分けテストを受け、学習者の語学力に応じたレベル（初級のレベル1から準ネイティブレベルのレベル6までの6段階）で学習を開始できる。

<p>レベル1</p> <p>CEFR Pre-A1相当 入門級</p> <p>英語を初めて学ぶ人や、いくつかの基本的な語彙のみを知っている、完全に覚えな単語やフレーズが少なく会話をする入門者向けです。</p>	<p>レベル2</p> <p>CEFR A1相当 初級</p> <p>英語を以前に学習したことがあり、理解したり読み取った単語や、簡単な文を読み取れる、基本的な会話ができる初級者向けです。</p>	<p>レベル3</p> <p>CEFR A2相当 中級</p> <p>英語を一定期間学習しているため、簡単なセンテンスで、会話の脈路のように理解をすることができ、さらに力を高めたい中級者向けです。</p>
<p>レベル4</p> <p>CEFR B1相当 中上級</p> <p>複数の簡単な文章を使って情報を説明したり、様々な状況に答えられる一方で、もっと話す練習機会を必要とする準上級者向けです。</p>	<p>レベル5</p> <p>CEFR B2相当 上級</p> <p>ネイティブスピーカーとスムーズにコミュニケーションが取れる一方で、より複雑なトピックを詳細に説明したい上級者向けです。</p>	<p>レベル6</p> <p>CEFR C1相当 準ネイティブ</p> <p>ネイティブスピーカーと流暢にコミュニケーションを取れる一方で、より複雑なトピックを詳細に説明する準ネイティブ向けです。</p>

図5 Immerse レベルとCEFR 相対表

学習機能には「対人レッスン」「AI 英会話」「コミュニティ交流」の3つがあり、これらが現行の海外研修や英語学習の課題解決に寄与すると考えられる。

4.3 アバターを活用した対人レッスン

1つ目の特徴である対人レッスンでは、世界中から集まる学習者と共に、プロの講師からフィードバックを受けながら実用的な英語を学ぶ。講師の採用率は1%未満であり、そのうち76%が修士号または博士号を取得^[1]している。これにより、高品質な語学教育が提供され、学習者の満足度も平均4.9/5.0^[1]と非常に高い。特に、出発前の事前学習や研修参加後の事後学習において、英会話への不安を軽減しながら実践的なスキルを磨くことができる。Immerseの研究では、従来の語学学習よりも4倍の速さで流暢な英語を習得できると報告されている。



図6 アバターを活用した対人レッスン

4.4 AIを活用した会話練習

対人レッスンで学んだスキルを実践するためには、繰り返しの練習が必要である。ImmerseのAI英会話機能では、ネイティブスピーカーのようなAIと自由に会話練習ができるため、学習者は自分のペースで継続的に英語を学ぶことが可能である。また、実生活に近いシナリオでの会話練習やフィードバックを受けることで、自然な応答力を養い、会話の精度を向上させる。さらに、フラッシュカードや穴埋め問題を活用し、語彙や発音の強化を図ることができる。

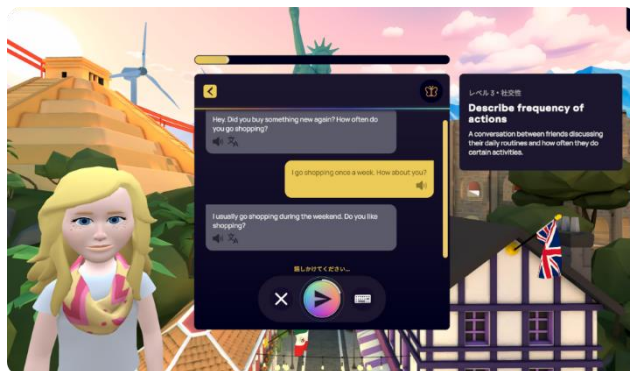


図7 AIを活用した会話練習

4.5 コミュニティでの交流

学んだ英語を実践する場として、世界中の学習者とゲームやイベントを通じて交流できるコミュニティ機能^[1]がある。例えばテーマ別のミートアップや言語交換ができるソーシャルラウンジなどである。この機能を活用することで、世界中の学習者と繋がり、異文化理解を深めながら、英語でのコミュニケーションを継続的に行うことが可能となる。



図8 コミュニティ交流の様子

4.6 課題の解決

Immerse を活用することで、海外研修後も日本に
いながら留学レベルの語学学習を継続する環境を
提供し、学習モチベーションの維持にも寄与できる。
また、比較的安価な価格設定のため、海外語学研修
を希望する多くの学生に対し、経済的な制約を理由
とする参加機会の制限を最小限に抑えることがで
きる。これらの取り組みにより、ポストコロナ社会
における海外語学研修の課題解決と、持続可能な海
外研修の実現を目指す。

5. おわりに

山口大学工学部におけるメタバース留学の導入
背景、これまでの取り組み、そして今後の発展につ
いて述べた。メタバース留学はもはや、単なるコロ
ナ禍での海外語学研修の代替措置ではなく、新しい
形の語学留学としての可能性を秘めており、教育の
DX 化、留学機会の拡大、学習の持続性向上といっ
た多くのメリットを提供している。今後は、Immerse
の活用を通じて、留学前後の学習継続支援を強化し、
より多くの学生が国際的な環境で学び続けられる
ような仕組みを構築することが求められる。また、
海外研修に参加する志のある学生の経済的負担の
軽減や、教育分野におけるデジタルツールの活用促
進も重要である。これからのグローバル社会におい
て、メタバースを活用した新たな学びの形をさらに
発展させ、あらゆる分野における学生のキャリア形
成に繋げていきたい。

参考文献

- [1] <https://www.immerse.com/ja/home> (令和7年3月3日
アクセス)

謝辞

本取組にご協力いただいたシェフィールド大学の David Read
氏に、心より感謝申し上げます。また、導入にあたり多大な
ご支援を賜りました、株式会社イマースジャパン代表取締役
役の澤田和信氏に深く感謝いたします。

国内の事例として貴重な情報をご共有いただいた、青山学院
大学経済学部の佐竹由帆教授、日本大学文理学部の小林和歌
子教授、中央大学国際情報学部の齋藤裕紀恵教授に感謝申し
上げます。さらに、学内イベント実施の際、ネットワーク接
続の課題解決にご協力いただいた山口大学情報基盤センタ
ーの爲末隆弘教授、総合技術部情報技術課西村世志人技術専
門職員、金山知余技術専門職員に感謝申し上げます。